

令和４年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第１層協議体会議録

議題	１ 令和３年度第２層地域支え合い推進員の活動から ２ グループワーク「担い手の確保に向けた取組について」 ① 担い手確保の現状と課題 ② 担い手確保のために取り組んでいること ③ 担い手確保に向けた解決策 ④ まとめ ⑤ グループワーク結果の発表 ３ その他
日時	令和４年１１月２１日（月）１０時００分から１１時３０分まで
場所	茅ヶ崎市役所本庁舎４階 会議室３～５
出席者氏名 （敬称略）	松井 新吾、平本 哲也、菅野 京子、海野 誠、小澤 伸一、 田島 一紀、坂井 修一、有元 佳子、田澤 健夫、高山 和茂、 澄川 篤、鶴田 國夫、小山 紳一郎、大川 寿之、臼井 高之、 茂呂 学郎、藤尾 直史 （欠席委員） なし （事務局等） 内藤 喜之、野崎 奈由子、清水 大空、佐藤 祐輔
会議資料	・ 次第 ・ 資料１「令和４年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第１層協議体構成員名簿」 ・ 資料２「座席表」 ・ 資料３「グループワークの進め方について」 ・ 資料４「各団体等の活動状況」 ・ 資料５「令和３年度第２層地域支え合い推進員の活動から」 ・ 参考資料「茅ヶ崎市生活支援体制整備事業実施要綱」 ・ 新型コロナウイルス感染防止チェックリスト
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数 （公開した場合のみ）	０人

1 開会

【茅ヶ崎市理事兼福祉部長：内藤 喜之】

本日は、ご多用のところ令和4年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、会議開催にあたり、構成員の皆様におかれましては、感染予防対策にご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

日本全体の高齢化が進む中、茅ヶ崎市の高齢化率も26%を超えており、このような数値の伸びが収まる状況にはなく、併せて高齢者への支援の必要性もこれまで以上に増えています。

支援を行う支え手に関しては、ここ数年のコロナ禍の影響で、地域活動が中止や延期を余儀なくされていたことから、それによって、課題や問題が明らかになってきているところでございます。

困りごとを抱えている高齢者の方々を地域でどのように支えていくか、そのための担い手をどのように確保し、その活動を継承していくか、様々な地域の支え合いの取組を行っていく上で、非常に重要な課題であると考えております。

本日は、構成員の皆様がもつノウハウなどを活用しながら支援を必要としての方々を支える側の現状や課題、その解決に向けた取組についてご意見を賜れば幸いです。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 令和3年度第2層地域支え合い推進員の活動から（資料5）

【第2層地域支え合い推進員：藤尾 直史】

私からは、令和3年度第2層地域支え合い推進員の活動報告とグループワークに向けてのお話をさせていただきます。

まず、茅ヶ崎市内13地区に配置された第2層地域支え合い推進員として、毎月様々な会議に参加しています。その中で、令和3年度の活動報告から抜粋した資料をもとに、資料5の1頁「第2層地域支え合い推進員が把握した地域の実情」について説明いたします。感染予防から高齢者が外出等を自粛され、生活面で必要な場面（買い物等）を介護サービスやボランティア活動等が支えた場面がありました。また、コロナ禍により高齢者の集いの場が様々な理由で自粛され、外出自粛による体力低下や認知症進行の懸念がでていま

す。そして、顔を合わせる機会が減り、普段は気軽に聞けていたことが聞けなかったりすることで、従来は軽微なうちに把握されていた困り事や支援の必要性等についても、把握の機会が少なくなったという意見もありました。

続いて2ページですが、地区の回覧も難しい状況で、必要な方への情報伝達等の減少等がありました。また、集合を避けるため、会議等が縮小されたり、通年で活動しながら知ることや、活動内容などが引き継げず、今後の活動の継承に不安を感じるという意見がありました。これは、自治会や地区社協の役員が代わっていく中で、2年間イベント等が開催できなかったことによるものです。あと、通院の際の院内付き添いは、原則、介護保険サービスの対象外のため、院内付き添いが必要な場合の支援がない、家族が高齢で付き添えない等の相談があり、地区ボランティアセンターで対応する場面もありました。

続いて、草取りなど力仕事のできる人が少ないという意見や、在籍はしていても、高齢化、体調不良やコロナの不安から活動を自粛されるなど、活動者に偏りがあり、一部の方に負担が生じているという意見がありました。あと、コロナ禍でのイベントや行事について、密を避けるため複数回に分けて開催したらどうかとの意見もあったが、活動の担い手が少ないという理由で、活動を見送ることもありました。

3ページはまとめとなります。第2層地域支え合い推進員としては、次の3点について特に課題認識を持っております。

高齢者の集いの場の拡充のためには、会場の確保が必要ですが、コロナ禍で使えなくなっているところがありますので引き続きよろしくお願いします。

院内付き添いについては、医療機関や専門機関とも連携が不可欠です。どうすれば通院する人の負担を軽減できるかという点を検討する必要があると思っております。

また、担い手の確保が急務となっております。担い手とは、団体等の構成員、働き手、ボランティアのことです。今日のグループワークでは、ボランティアメインのグループ、事業主メインのグループ、団体メインのグループに分かれて行っています。

2ページ目の上のスライドで示している、今後の活動の継承の問題が生じる点についても担い手の観点から考え得るものと思います。また、介護保険サービスでは原則できない院内介助は、現在ボランティアが行っています。本来であれば院内スタッフの対応となりますが、なかなかできていない状況です。ケアマネージャーからは、自費サービスでの対応ならまだ可能ではないかとの意見もでており、専門職の担い手不足という観点でも考えられると思います。

最後に3ページ目のグループワークに向けて、学生や現役世代の方は、コロナの影響で通勤通学の負担が減り時間ができたことにより、ボランティアや地域活動への参加を希望する声がありました。また、若年性認知症の方でもまだ体が元気ということで、何かしらの支えがあれば活動が可能ということで、地区ボランティアセンターへの登録実例があります。

。1人で家にいると孤独感からお酒を飲んでしまうが、地域の方が寄り添い話をする中で、地域活動に入っていったという事例もあります。まとめると、障害や認知症など様々な課題を持った方を、支援するだけでなく「本人の役に立ちたい、地域に参加したい」という本人の気持ちを受け、工夫しながら地域の活動に受け入れることも増えているという現状もありますので、以上のことを踏まえながらグループワークをしていただければと思います。

(2) グループワーク「担い手の確保に向けた取組について」

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課介護保険担当課長：臼井 高之】

藤尾第2層地域支え合い推進員からご報告いただきましたように、近年の様々な社会状況や本市の第2層地域支え合い推進員の活動から、「高齢者の生活支援を行うための担い手の確保」について、課題が浮かび上がってきております。

また、事前に委員の皆様からいただいた各団体等の活動状況からも、後継者不足や事業の継承が課題という内容の記述を複数の委員からいただきました。

これらの状況等を踏まえ、本日は、「担い手の確保に向けた取組」というテーマで、グループワークを行い、第1層協議体で話し合った内容を第2層地域支え合い推進員にフィードバックすることで、今後の活動に活かしていきたいと考えています。

それでは、グループワークの進め方やグループワークの間の進行を事務局にお願いします。

【事務局】

事務局からご説明申し上げます。

本日のグループワークのテーマは「担い手の確保に向けた取組」となります。

グループワークの進め方につきましては、事前に配布させていただきました資料3、又は、ホワイトボードをご確認ください。

本日のグループワークは、今、委員の皆様にお座りいただいております3つのグループで話し合いを進めていただきます。

各グループに進行役と補助スタッフを1名ずつ配置させていただいております。

また、備品として付箋等をご用意しておりますのでご活用ください。

ホワイトボードをご覧ください。①～④について、目安の時間を記載しておりますが、進行に合わせて事務局からのご案内いたします。

①、②については、まず、3分程度で各委員のご意見等を付箋に書き出していただき、その後、その意見を元に話し合いをお願いいたします。

③、④については、時間内で自由に話し合いを進めてください。本日のグループワーク

は、結論を出すものではございませんので、より多くの視点から、可能な限りご意見を出していただきたいと思います。

最後に、⑤発表としまして、各グループ代表者様に、約3分程度で発表をお願いします。

各グループの発表者については、事前に事務局より、1グループは海野様、2グループは小山様、3グループは平本様にお願いさせていただいております。事務局からの説明は以上となります。

【グループワークの実施】

「担い手の確保に向けた取組について」をテーマに、3つのグループに分かれてグループワークを行った。

【グループワーク結果の発表】

グループ1【茅ヶ崎市社会福祉協議会：海野 誠】

担い手の確保と現状については、それぞれの団体や活動内容が知られていないことや、成り手が少ないこと、コロナ禍において活動ができないことなどがあげられました。2つ目の担い手確保のために取り組んでいることとしましては、広報活動が中心になる中で団体がどういうことをやっているか知ってもらうことが必要であることと、顔が見える関係を構築することが必要であって、今のところ口コミが一番効果のある方法だという話が挙がっております。広報の仕方も年代毎にアプローチの仕方を変えたり、情報の出し方を変えたりしていく、例えば、高齢者には回覧板など紙で回したほうが良いし、若い人たちにはSNSなど使っていくとよいという話が挙がりました。

解決策としましては、なかなか自分から飛び込んでいくことはハードルが高いので、来てもらう仕掛けづくりが必要という意見がありました。その中でも子供が集まるイベントがよく、例えば、もちつき大会などが復活してくると子供たちも大人も集まり、いい状況ができてくるという意見がありました。各団体でできるときにできることから協力していただけるような関係作りをしていき、地域の人たちに広めていくことが大事ではないかとまとめさせていただきました。

グループ2【特定非営利活動法人NPOサポートちがさき：小山 紳一郎】

担い手の確保と現状としては、特に介護ボランティアの場合、ボランティア自身の高齢化や固定化、フレイル化の話が出ました。ここ2年間、コロナの影響もあって研修がストップしてしまっているところが多いので情報が入って来ないという話もありました。個人でボランティアをしたい人はいるが、団体に入って役員になったり連絡会の会長の役割を担ったりしたくない人が増えているのではないかと意見がありました。NPOの分野で

も同じ傾向があり、今はSNSで簡単につながることが出来るので、会長、副会長、書記などの役割を作らずに、融通無碍に活動だけ行い、組織化しない流れも出てきており、ボランティアの分野でも同じような課題があるように思いました。もうひとつはコロナの影響から、生活が厳しくなり、できれば同じボランティア活動をするのであれば有償で行いたいという人が増えているという分析もありました。

取り組んでいることでは、年に1回ボランティア大学というものを行っていて、50人程度受講し、約半数が各団体の会員になった事例がありました。また、地区社協の祭りに参加したり、小中学校の体験学習に参加したりしながら次世代の担い手を見つけていくことに取り組んでいるという報告がありました。ノウハウ的なものとして、ボランティアは楽しくないとダメということで、草取りを行ったらそのあとの懇親会が肝というお話がありました。

解決策については、ボランティアは楽しくないといけないという視点から、歌うこと、歌うことによって体も元気になるし良いというお話がありました。また、スタンプラリーをすることで小学生と親が来るので、親子でボランティアについての認識を深めてもらうのが良いのではないかという話が出ておりました。そのつながりでNPOサポートちがさきで行っている活動として、こどたん（こどもたいけんワイワイまつり）があり、過去2年間はオンラインで、来年の3月は対面開催で、親子で遊ぶ要素を含めた体験をしながら市民活動に対する認識を深めてもらうことを予定しています。また、市社会福祉協議会と市民活動サポートセンターの共催事業として、ユースボランティアちがさきという、主に学生を対象に夏の期間体験学習をしており、若者にとって貴重な体験となっております。できれば幼少期、難しければ高校生くらいまでの早い段階までにボランティア体験を意図的に作っていくことが大事だと思います。最後に、ボランティアの募集に関しては、高齢者、若者、中高年によって広報の仕方が違うが、特に若者は広報誌を読まない方が多いので、SNS、ツイッター、インスタグラム、LINEなど新しいツールを活用していくと良いとの意見が出ていました。

グループ3【一般社団法人茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会：平本 哲也】

1つ目の担い手確保の現状と課題について、一般社団法人茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会に新規参入される事業所が少ないのが現状で、連携がとりづらい点が現れています。また、地域包括支援センターには、様々な専門職の方がおりますが、専門職の適正な配置が難しい状況です。そのような中で市民の相談件数は増えており、対応が難しくなっているという意見がありました。また、現在では、多くの方が65歳まで働くので、シルバー人材センターでは、平均年齢が75歳となっており、担い手が少なくなっている状況で、草取りの依頼があってもそれを担うリーダーが80代という例もあり、課題が生じて

います。また、福祉相談所も本来は6名ほど専門員が必要ですが、現在5名で兼務しながらの任務となっているという課題が生じています。そのような中、例えば歯科医師が在宅診療のために訪問したときに、治療に加えてゴミの仕分けまでするということもボランティア的に増えてきている現状があります。

2つ目の担い手確保に向けて取り組んでいることについて、一般社団法人茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会としては、要支援1、要支援2という比較的介護度の軽い方向けに、介護の資格が必要でない、研修を受ければ従事できる介護予防・日常生活支援総合事業担い手研修・生活援助員研修を開催し、受講者が現場に出ていくという流れを敷いております。しかし、一定数の就労は見られるものの、まだまだ不足している状況となっております。また、中学校等へ出向いて出前講座を行い、介護事業所のイメージアップの取組などを行っています。すぐに効果が見えるものではないという意見がありました。シルバー人材センターでも同様に、ハローワークなどへ出前講座を行い、930名ほどの会員のうち女性が2割程度ということで、女性の会員が増えるようなセミナーを開く等の活動をしていました。地域包括支援センターでは、複合施設が多いので、そこでバザーをしたり地域の方が集まる取組の中で、久しぶりに顔を合わせ、様子の把握が出来た事例もありました。

3番目の担い手確保の解決策について、みなさん高齢になっているということで、「担い手」という言葉が重く受け止められ尻込みされる方もいるので、お互い様として、皆で集まり支え合える様な場が出来ると良いのではないかという意見がありました。場を作っておかないと継承もできないというところにもつながるのではないかという意見が出ました。補足としてバザーに出店される方の生活の様子がわかるという副次的な効果があるという話もありました。

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課介護保険担当課長：臼井 高之】

委員の皆様のこれまでの活動や経験などから、様々な視点からご意見をいただき、大変参考になるものでした。皆様の良い活動は沢山ありますが、その情報発信が大事であると改めて感じたところです。今、即効性のある対策と長い目で見た対策の両方を進めていくことが大事だと思います。

本日、いただいたご意見については、各委員の皆様にあっても、各団体等に持ち帰っていただき、情報共有していただくとともに、第2層地域支え合い推進員の活動に活かすことで、現在、市域全体で浮かび上がっている「担い手確保」という課題を一步步でも、解決していけるよう、更に取組を進めてまいりたいと思います。

(3) その他

【事務局】

特になし

3 閉会

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課介護保険担当課長：臼井 高之】

本日は、ありがとうございました。今後一層皆様からのご協力をいただければ幸いです。以上をもちまして、令和4年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体を終了いたします。

(以上)